

教 育 長 報 告

I 報 告 事 項

「県立学校編成整備計画に関する懇話会報告の概要について」

II 懇話会報告の概要等

1 懇話会設置の趣旨

現行（平成14年度～平成23年度）の県立高等学校編成整備計画及び県立特殊教育諸学校編成整備計画は、計画策定時から4年を経過し、近年の少子高齢化の進行や国際化、情報化など児童生徒を取り巻く環境の変化や本県の厳しい財政事情に対応した見直しが必要になってきた。

見直しに際して、関係機関、学識経験者及び地域等の意見を聴取する「県立学校編成整備計画に関する懇話会」を設置することとした。

2 協議依頼事項に係る提言

(1) 沖縄インターナショナル中等教育学校（仮称）について

当初計画にある県立美里高等学校を中等教育学校に改編することについては、中頭地区の生徒数の推移や同校の学科改編等の困難さなどから見直す必要がある。同中等教育学校の設置場所については、外国語関連の学科をもつ既存の学校を再編することがより実現性が高いのではないかと思われる。

したがって、英語関連の学科を持つ既存の学校を研究指定してイマージョン教育の研究を行い、その成果を将来の中等教育学校に繋げることが望ましい。

(2) 総合工芸高等学校（仮称）について

沖縄の伝統工芸分野の人材育成、後継者育成は県の重要な課題である。しかしながら、工芸関係の人材育成としてのニーズ、首里高校の染織デザイン科の充実した施設設備の移設に伴う財政負担や地域・関係者の合意形成等を考慮すると、総合工芸高校の設置については、現時点では見送らざるを得ない。

(3) 定時制・通信制独立校（仮称）について

全日制との教室等の併用のない定時制・通信制専用の施設を有する中部地区の独立校の設置については、定時制の生徒数から見送らざるを得ない。

しかし、特に通信制への需要が高くなってきていることから、泊高校の通信制の過密状況を解消する必要があり、中部地区の既存の高校に通信制課程を新設することが望ましい。

(4) 那覇中等教育学校（仮称）について

今後の中高一貫教育校の成果を踏まえ、生徒・保護者のニーズや県立学校の適正配置、さらに県の財政状況も考慮に入れながら、那覇市内の既存の高等学校に併設型中高一貫教育校の設置を検討することが望ましい。

(5) 沖縄高等養護学校の学科改編について

学科改編については、軽度の知的障害のある生徒の社会自立及び職業自立の充実・推進という開校以来の学校目標を実現するための望ましい在り方について、次の点に留意しながら継続検討し、県教育委員会として総合的に判断すべきである。

①卒業生の進路状況と県内の知的障害者の就労状況、さらに今後の社会的・経済的状況の変化等を総合的に分析し、学校として今後の職業教育の在り方を検討する。

②教育課程の指定研究を進める中で現行のコース制の成果や課題等を整理し、学科の在り方についての検討に生かす。

(6) 施設併設の養護学校への通学制導入について

那覇養護学校においては、校地が狭隘であることに加えて、給食実施、スクールバス配置の要望に応えることが困難であるなど課題が多い。鏡が丘養護学校浦添分校においては、対象児童生徒に通学制のニーズを見いだすことができない。したがって、那覇養護学校及び鏡が丘養護学校浦添分校への通学制の導入については、実施を見直す方向で検討することが適当である。